

「～投票へ行こうキャンペーン～ 介護体験案内セミナー」の実施について

参加人数：20名

内訳：北海道知事候補予定者1名（民主1名）

北海道議会議員候補予定者4名（民主3名、共産1名）

札幌市議会議員候補予定者13名

（公明2名、民主3名、共産2名、市民ネット5名、無所属1名）

小樽市議候補予定者1名（新党大地1名）

江別市議会議員候補予定者1名（民主党1名）

介護後アンケート集計結果：別紙資料

感想：候補予定者の皆さんは、多忙な中時間をつくり熱心に取り組まれていた。

介護セミナー体験を今後の、それぞれの活動に生かされると感じた。

今後の政治活動に期待したい。

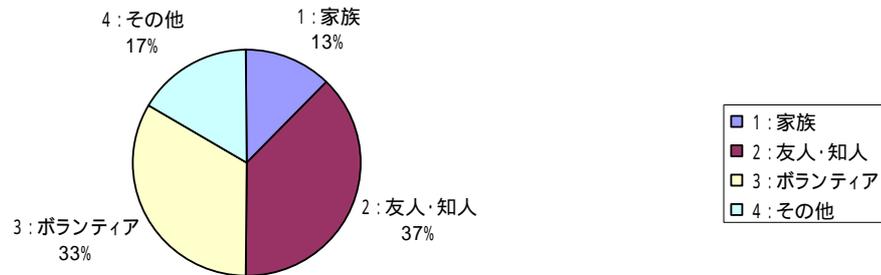
反省等：実施時期を投票日の3カ月前の実施を希望する声があった。

3カ月前に候補予定者を把握することは困難かもしれないが政党への案内等の対応を検討したい。

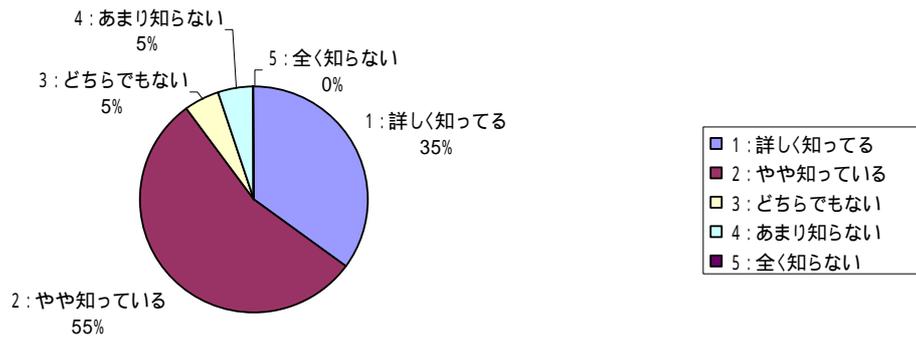
今回の企画を次回会議(3/13)までに総括して参議院選の3カ月前の4月に再度開催する。

アンケート集計【選択式】:

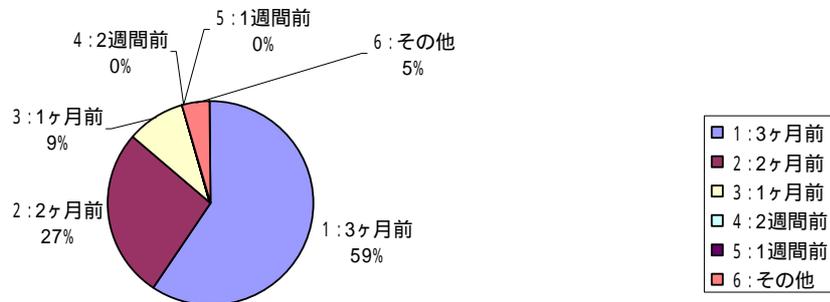
これまで障害者と関わったことがありますか？(複数回答可)



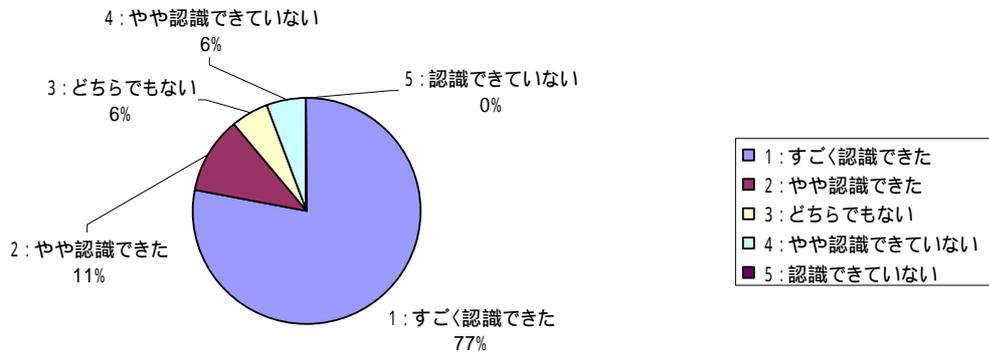
障害者自立支援法について、該当する番号を選んでください。(複数回答可)



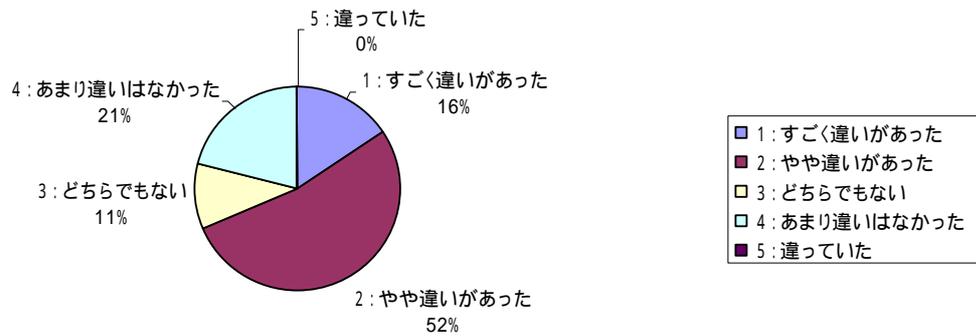
私どもは、今後も「介護体験セミナー」を実施していこうと思います。選挙告示日から何日前ごろに実施すると参加しやすいですか？



本セミナーを通じて、介護(支援)の重要性や難しさを認識してもらえましたか？(複数回答可)



介護体験をする前と体験後における介護(支援)に対するイメージとの違いはありましたか？(複数回答可)



アンケート集計【自由記述式】:

障害者自立支援法について、ご自由にお書き下さい。

北海道知事候補予定者

民主党

・荒井 聡

問題のある改正であり、元にもどすべきとの議員立法を行っている。

北海道道議会議員候補予定者

民主党

・梶谷大志

非自立にほかならない。国会議員と連携の上取り組みたい。

・広田まゆみ

無回答

・道下大樹

「自立支援」とは名ばかりで、1割負担や藤井文和認定区分項目、重度障害者に特に負担は重く、支援費制度の理念に逆行している。国の予算抑制が目的であり、反対。早急な改正が必要。

共産党

・小田一郎

「応益負担」という考え方、そのものが間違いだと思います。障害者のサービスが「益」なのでしょうか？障害者に行っているのは、その社会です。「応益」を求める政治は、経済効率を第一に求める政治でもあります。そうでない政治、社会をめざします。

札幌市議会議員候補予定者

民主党

・恩村一郎

現行の法律の下では、障害者の自立は無理。障害者の現状にあっていない法律であり、早急に改正の必要がある。

・宝本英明

現行の障害者自立支援法は“自立支援”という名のものに、自立が「阻害」されており、利用者主体の障害者福祉制度について検討し、より安心して障害者が地域で暮らせるための制度を早急に構築する必要がある。

・山口和佐

一部の人に関わりある法律ではなく、国民全体が自分に関わりあるものとして考える必要があると思います。

公明党

・芦原進

制度が変わる度に、制度が先行し、現実的な対策・対応が遅れている斜向にある。使いやすい、実態に応じた制度にする事も大切で有る。

・谷沢俊一

今後、移動支援、相談支援や地域生活支援センターなどの活性化や一層のユニバーサル社会の実現に向けて取り組んで参ります。

共産党

・小形かおり

国会でほとんどまともな審議もないまま成立させたことに怒りを感じています。福祉がすべて応能から応益負担に変えられ、人間らしく生きる権利を制度として否定したことになる日本。これが美しい国ですか？と安倍首相にききたい。

・熊谷憲一

応益負担が障害者の自立支援にふさわしくない。抜本的に見直すこと。

市民ネットワーク

・伊藤牧子

障害者自立支援法が施行されてから、障がい者や家族、支持者から本来の自立支援に逆行するとの意見が相次いでいます。障がい者に更に負担を強いる法律なので、当事者の参加で見直すことが必要です。

・小倉なほ子

障がい者の地域生活を支えようとする社会へというスローガンは、これまでの障がい者福祉の観点から一歩進んだと理解しています。しかし、詳細な制度については、当事者本位で選りとり、利用しようとする、使いにくかったり、経済的負担を強いられる状況をまねいていると思います。理念に添った見直しを行うべきだと考えます。

・坂ひろみ

身体・知的に精神が加わった点については 1 つの前進とみるが、法律の条文は実態とかけ離れており、当事者負担については早急に見直すべきだと考えます。

・佐藤典子

利用者の 1 割負担など、地域で自立して暮らすという趣旨に逆行していることが行われていると思います。本当の意味で自立支援となるしくみづくりを進めるべきです。

・山田すみ子

所得に応じた応能負担から、受けたサービスの量にたいして 1 割負担になる応益負担に変わったこと。医療費や施設利用量、車椅子などの装具の購入費の一割負担、また食住費、光熱費の自己負担の増大。標準介護時間が一日 4 時間など障がいの重い人ほど負担が重くなる矛盾があります。

無所属

・飯田佳宏

障がいを持つ方達の負担を増やすことを決めた。

障がいを持つ方達を支援している方達が反発している。

小樽市議会議員候補予定者

新党大地

・成田祐樹

申し訳無いです。

現在のままだと障害者にとって非常に大変という事しかわからなかったです。

江別市議会議員候補予定者

民主党

・林かづき

実情とそぐわない法律ということなので、今から勉強し、改善点を指摘し、議会（国）へ発信していきたい。

本セミナーを通じて、介護（支援）の重要性や難しさを認識してもらえましたか？

北海道知事候補予定者

民主党

・荒井 聡

すごく認識できた

車いすを押すことの難しさ、雪道は容易ではない。

北海道道議会議員候補予定者

民主党

・梶谷大志

すごく認識できた

一人で生活し、外に出て作業所に通う。この普通の営みが出来なくなるのは、閉鎖性を高める。

・広田まゆみ

すごく認識できた

無回答

・道下大樹

すごく認識できた

障害のある方が、地域で自立した生活をするためには、それだけ「人」のサポートが必要であるのか、そしてそれを下支えする法制度や予算がしっかりとしたものでなければならぬのかを再認識できた。今の現状では、やる気のある「人」はたくさんいるのに、法律や予算が充分ではない。それを支えたい。

共産党

・小田一郎

すごく認識できた・認識できていない(複数回答)

すごく認識できたという理由・・・

藤井さん(要介護者)の介護を通じて、車イスをうごかすこと、ひとつをとってほしいへんだということわかりました。はい尿の体験も初めてさせていただきました。

認識できていないという理由・・・

「100人いれば100通りの介護がある」(藤井さん)。その意味で、ほとんどわかっていないと思います。

札幌市議会議員候補予定者

民主党

・恩村一郎

やや認識できた

もっと様々なケースを体験してみなくてはと感じたから。

・宝本英明

どちらでもない

介護の重要性や難しさはそれなりに認識していたつもりですが、短期間の体験セミナーで総じて理解することは困難があると考えます。

・山口和佐

すごく認識できた

どこまでサポートし、そしてどこからは自力で行動してもらおうという境目がわかりませんでした。

公明党

・芦原進

体験をしていないため無回答

・谷沢俊一

体験をしていないため無回答

共産党

・小形かおり

すごく認識できた

必要な支援は人によって違います。そのことを理解して、スッと求めていることがわかるようになるヘルパーさんや看護師さんの専門知識やコミュニケーション能力はすごい！と思うと同時に、慎重さも求められ大変な仕事だと思います。

・熊谷憲一

すごく認識できた

施設見学だけでは判らない、実際の御苦労がわかりました。

市民ネットワーク

・伊藤牧子

やや認識できた

在宅介護は訪問医師、訪問看護師、訪問ヘルパーとの連携が特に大切だと思います。24時間体制ではないので、要介護者の夜間時、緊急時のサポート体制をどうつくっていくのが課題だと考えます。

・小倉なほ子

すごく認識できた

今回、酸素や栄養を吸引しながら自立生活を実現させ、自分らしく仕事を続け、多くの方と関わりながら暮らしていらっしゃる様子を体験させていただいたことはとても貴重です。また、ヘルパーの方に同時に介護する方のお話もうかがうことができました。

・坂ひろみ

すごく認識できた

実際に体験してはじめて当事者の気持ちを理解することができると思いますし、互いのコミュニケーションの重要性やその人その人にあった支援の方法など奥が深いと思います。

・佐藤典子

すごく認識できた

雪道のザクザクした道は車イスで移動できず、すぐ近くのMSまで介護タクシーで移動するなどのお話を伺いました。また、実際いっしょにお買物に行かせて頂き、雪道や段差など介護の重要性、移動支援の充実が必要と思います。

・山田すみ子

すごく認識できた

作業所の体験をさせてもらいました。仕事として出来あがった商品の販売ルートの確立が重要だと思いました。札幌市の元気ショップでよく売れているという事でした。街の中心部で人の賑わう便利な場所では売れるのですから販売場所の常設の拡大が急務だと感じました。

無所属

・飯田佳宏

すごく認識できた

とにかく人手が勝負かもと思いました。

小樽市議会議員候補予定者

新党大地

・成田祐樹

すごく認識でした

一緒に歩いたり、話したりすると、目線が変わって物が見えたので。
歩く 施設の便利さや、他の歩行者の動きが気になる。

江別市議会議員候補予定者

民主党

・林かづき

やや認識でした

介護、支援は、毎日、日常のひとつひとつの行動、出来事だと実感した。

介護体験する前と体験後における介護(支援)に対するイメージとの違いはありましたか？

北海道知事候補予定者

民主党

・荒井 聡

すごく違いがあった

想像以上に介護者の労力がたいへん

北海道道議会議員候補予定者

民主党

・梶谷大志

あまり違いはなかった

すでに何度か体験済みの為

・広田まゆみ

やや違いがあった

無回答

・道下大樹

あまり違いはなかった

今までもいろいろと介護現場を視察したこともあり、NPOの福祉ボランティアグループの一員として、介護や介助ボランティアをしたこともあるので。

共産党

・小田一郎

すごく違いがあった

歩歩路さんにきている利用者さんが多様であること。「重度」とか、「身体」とか、「知的」とか、自分での一定、かたまったイメージがありました。

札幌市議会議員候補予定者

民主党

・恩村一郎

どちらでもない

体験事例がまだまだ少ないから

・宝本英明

やや違いがあった

介護職員が思ったより若年だったことに驚いています。今後の介護体制の充実に向けては若い介護職員の採用は重要なポイントだと思います。

・山口和佐

やや違いがあった

必要以上にサポートしないという点が今までのイメージと違いました。

公明党

・芦原進

体験をしていないため無回答

・谷沢俊一

体験をしていないため無回答

共産党

・小形かおり

やや違いがあった

電球をとりかえることはサービス外というお話、緊急事態を考えて玄関の鍵はかけないというお話は体験してみないとわからないことでした。

・熊谷憲一

すごく違いがあった

イオンのトイレの多目的トイレは車椅子の利用者は実際に使えないトイレがあり、改善が必要。

市民ネットワーク

・伊藤牧子

あまり違いはなかった

人間としての尊厳が尊重され、基本的人権が守られることが障がいのある人にも保障されるべきと考えていました。

・小倉なほ子

やや違いがあった

家族の介護体験、また知り合いのボランティアを経験していますが、初めてお目にかかる方と短時間で、どのように向きあえるのかと多少不安もありました。しかし、まったく無用の心配でした。小谷さん（要介護者）の人を受け入れるパワーだと思いますが、ありのままの自分まで良いということ、「知らないことは、知らない」ということ、聞きたいことは率直に聞くこのあたり前が大切だなと感じました。

・坂ひろみ

やや違いがあった

代わりにやってあげるではなくあくまでも決定権を持っているのは当事者であることを前提とした支援ではなくてはならないことがヘルパーさんを見ていて改めて感じました。

・佐藤典子

やや違いがあった

電動車イスの移動など思った以上にスピードが早く介護者の体力が必要と思いました。また、道路のどここの振動が激しく、バリアフリーのまちづくりの必要性を改めて感じました。

・山田すみ子

やや違いがあった

作業所での初めての体験でしたが、自由で楽しくも厳しくお仕事をしていました。私達がかつてもっと気軽に訪ねる事のできる場所である事がわかりました。

無所属

・飯田佳宏

やや違いがあった・どちらでもない(複数回答)

支援している方達の感覚というかイメージがちょっと違った(いい意味で)

小樽市議会議員候補予定者

新党大地

・成田祐樹

やや違いがあった

介護する側の人との性格的なミスマッチの存在などを知らなかったの。より柔軟性をもった介護システムが必要かと思いました。

江別市議会議員候補予定者

民主党

・林かづき

やや違いがあった

毎日、日常 24 時間 365 日休みがないことを実体験した。

介護を受けながらの自立した生活とは何か？それを保障するために「政治」が出来ること

が何か？そしてあなたは何かができますか？

北海道知事候補予定者

民主党

・荒井 聡

地域が受け入れることは、共生の社会を作ることができる。もともと政治は共に生活する場を豊かにするためにある。支援を必要とする人がもっと社会で暮らせるようなあり方をさらに追求したい。

北海道道議会議員候補予定者

民主党

・梶谷大志

各自が家賃を払い住宅に住み、そこから外出をすることが出来る。ごく普通の生活には介護が必要。どこかの施設に押し込む、外出が出来ないというのは、常識からかけはなれた世界。きびしさもあるかも知れないが、健常者と同じ生活（生き方）をするためにサポートするのが政治の役割と考えます。

・広田まゆみ

障がいを持つ人も持たない人もともに学べる学校づくりをきっかけに、当事者の人の声を聞きながら道政に反映したいです。

障がい当事者の人が政治の場に立候補する人が出てくるように応援したい。

・道下大樹

「介護を受けながらの自立した生活」とは、「介護を受けなければ自立した生活ができない」ということだと思う。その「介護」とは単なる「サービス」ではなく、障害のある人が生きていく上で最低限必要な「権利」だと思う。その権利を守り、保障するのが政治の役割であり、そのための法制度を確立する必要がある。私はそのために、障害者、団体、専門家などから多くの意見や要望を聞きとり、それを実現していきたい。

共産党

・小田一郎

障害者がそれぞれ望む生き方・人生が尊重されること。それぞれの人の人格や人権の違い（多様性）が認められること。私自身が、日常を共にすること。

札幌市議会議員候補予定者

民主党

・恩村一郎

政治とは基本的に“おもいやり”であり、“やさしさ”であると考えています。障害者は特別なものではなく、誰もがそうなる可能性を持っていると思っています。自分を含め、障

害者と呼ばれるようになった時でも困らずに生活できる、そんな社会基盤整備を進めていくことが必要と考え、取り組んでいきます。

・宝本英明

介護を受ける人総てが、自らの意思で地域と交わって行ける日々の営み。

現行法の問題点を早急に検証し、対案をもって法律を改正させること。

実態を正しく把握するため、多くの人達の意見を聞き、議論に積極的に参加すると同時に、自らに与えられた場面ではしっかりと意見反映して行くこと。

・山口和佐

障害者が受け身でサポートを受けるのではなく、自らの意思でそして自分のスタイルで生活していくことだと思います。それを保障するために、政治ができることは障害者が住み良い環境整備。私ができることは直接障害者の方からお話を聞いたり、今回のように介護体験をし、少数の声であってもそれをきちんと受け止め、議会にその声を届けること。

公明党

・芦原進

・谷沢俊一

経済的な拡充について、取り組みたいと考えたい。

共産党

・小形かおり

自分ができることは自分です。できないことは介護サービスにお願いする。これが自立した生活だと思います。障がい者自立支援法は応益負担という考えによってつくられたので、介護サービスを受け入れたくても経済的負担が重すぎて利用できない人を生みだしました。政治がすべきことは必要なサービスが経済力の有無に関らず、受けられるしくみをつくることだと思います。これは国の法律としてつくられ、本質的には国会の力関係を変えることですが、地方政治として、低所得者の利用料減免や一割負担の市独自の補助などを実現させるよう力をあわせたいと思います。

・熊谷憲一

障害者自立支援法を改め、所得保障をしっかりと行うこと

自立ができる様々なバリアを改善すること、障害者の就労対策などを解決すること、障害当事者が参画して政策を見直すことが必要です。

市民ネットワーク

・伊藤牧子

高齢になっても、どんな障がいがあっても人間としての尊厳が尊重されその暮らしが保障されることが自立の一步と考えます。誰もが住み慣れた地域の中で、生活できるように様々な状況に置かれている当事者が直面する個別の課題を全体化し、その解決策としての制度（仕組み）をつくるのが政治の役割と考えます。地域の中でその課題に真剣に向き合い市民・行政・議会へと繋げていきたい。

・小倉なほ子

誰もがどのように暮らしたいかを自分で決める・決めた暮らし方を実現するために必要なサービスを選び、使うことができる・・・とても当たり前のことだと考えています。それを保障するためにはものごとを決める場にきちんと1人1人の声がまっすぐに届く必要があります。公的なお金（税金）の使い方を当事者の声ですすめ、そのお金とサービス提供者（事業所）とをどのような形でつないでいくことが、自治体の現状<財政的・人的・地理的>にふさわしいのかを見極めていくことが重要と考えます。そのそれぞれの場面をコーディネート、ネットワークすることに力を注ぎたいです。小さくても良いのでたすけあいの輪が地域に数多くあることが理想です。

・坂ひろみ

人として生きる為に必要なあたりまえのことを介護を受けながらできる生活。障がいをもった人達が生きる為に必要なサービスや支援を提供しそのしくみをつくるのが議会の役割と考えますがそれらのすべてを税金でまかなうことはむずかしいと思います。民間の企業、NPO、市民団体、ボランティアなど多様な支援体制が必要です。当事者と行政をつなぐコーディネーターとして政策実現を目指すので私達議員の果たすべき役割を考えています。

・佐藤典子

地域で共に生きる、働く、暮らすという誰もが安心して自分らしく生きることができる社会を、一緒につくっていききたいと思っています。様々な課題をみなさんの声の代弁者として議会で取り上げるなど、活動をすすめたいと思います。

・山田すみ子

誰もが地域で自立して社会の一員として暮らしていく権利があります。障がいを持っている方が、そのための介助を制限されることを見直す必要があり、拡大しなければなりません。応益負担には障がい者に対する「ジョブコーチ」などの就労支援や働く場の確保が欠かせません。当事者の声を政治に反映する仕組づくりや千葉県のように「障がいのある人

もない人も共にくらしやすい千葉県条例」を札幌市でも制定に向け取り組んでいきたい。

無所属

・飯田佳宏

移動の自由、自由に外とふれあえること、誰とでも希望をかなえやすくするための制度設計、真白な頭で要介護者の話しを聞くこと。

小樽市議会議員候補予定者

新党大地

・成田祐樹

自立した生活 自分の意思の通りの活動ができることによって、初めて自分自身の「やりたい事」ができる余裕ができること。そこから、被介護者の自立が始めると思いました。

政治ができる事 個々にバラバラになった仕組みを上手につなげて、より介護される側の意見を通りやすくする事です。

私ができる事 役所に勤めている人や、何げなく普通に生活している人に対して、幅広く目線を持ってもらう事です。 被介護者、スタッフの立場での目線

江別市議会議員候補予定者

民主党

・林かづき

現場の声、市全体の政策バランス、さまざまな声を聴くこと、そして、政策過程に反映させること。

介護体験をした後の率直な感想をお書き下さい。

北海道知事候補予定者

民主党

・荒井 聡

施設はよく訪問したが、直接食事介護等は初めての経験でした。

ともに交流することが楽しいことです。

もっと多くの人に体験、あるいはボランティアをする機会を作りたいです。

学校教育などに取り入れていきたいです。

北海道道議会議員候補予定者

民主党

・梶谷大志

- ・遠路をそれぞれが通ってくる中で、四季の変化、街並みを感じていた。とても素晴らしいこと。
- ・朝の掃除、食事の準備、キビキビと働き、役割分担がされていた。民間企業に勤める為の、訓練を試みてはと感じた。
- ・商品の品質、管理、完成度は指導次第でもう少し高まると感じた。当然、品質が高まれば、売上げも上がると感じた。販売経路については、相当の努力を要するかもしれないが、商品製造同様の力をそそがなければいけない。また、外部（オブザーバー）から意見をもらうことも大切では。貴重体験をさせていただきました。ありがとうございます。

・ 広田まゆみ

スロープがやはり、傾斜がきついなーと思いました。

・ 道下大樹

介護をさせてもらった方から感謝されたことにとても感動し、本当に良かったーと実感した。また、介護の大変さ、また宿直の大変さを、お話しと想像と体験で再認識できて、これからの私の活動にとっても役立つ経験となった。こういった体験は、多くの人びとが、義務とは言わないまでも、やってみるべきだと思う。

共産党

・ 小田一郎

体験させていただき、ありがとうございました。

これまで「しんぶん赤旗」の記者として、取材したり、政党の職員として、関係法や制度について学んだり、というのはありましたが、体験は初めてとあっていいくらいです。

もっと現実（ふだんのこと）を知らなきゃないです。

ワーキングプアふくめて、社会的弱者は、政治（行政）がつくりだした部分がほとんどだと考えています。だから政治の力で、「弱者」とされた人たちをそうでない立場にしなければならぬのです。

札幌市議会議員候補予定者

民主党

・ 恩村一郎

ほとんど雪はなかったとは言え、冬道での車椅子の走行の大変さは、思っていた以上のものと言えるかもしれません。

短時間の体験であり、もっといろいろなケースを体験させていただいた上で、改めて意見・感想を述べさせてもらいたいと思います。

・ 宝本英明

無回答

・山口和佐

普段、私にとってなにげない行動も障害者の方にとってはこんなにも難しいのだということを感じました。

コートを着ることでさえも介護が必要という状況の下、私は最初、とまどってしまいました。しかし、自分の動きを思い出してみてもとわれ、それを思い出がくことによってサポートすることができました。介護は、自分がその人になりかわっていることを想像し、何がベストなサポートなのか見極める目が必要だということ学びました。過度なサポートは障害者の方の自立した生活を抑制してしまうということもわかりました。

障害を持った方が少しでも普通の暮らしができるように私たちは、近すぎず、そしてまた遠くないスタンスからのサポートをしていかななくてはならないと感じました。

公明党

・芦原進

体験をしていないため無回答

・谷沢俊一

体験をしていないため無回答

共産党

・小形かおり

全くの素人をあたたかく受入れてくださってありがとうございます。障がいがあっても働きたい、自分でやれることはやるんだ！という信念のようなものを感じさせていただきました。同時に、「いつ緊急事態になるかわからない」と備えておられるお姿に、病気に対する不安を常に抱えながら生活されていることもあらためて教えていただきました。

“格差社会になったっていいんだ”と平然としている政治家には、この介護体験を3ヶ月～6ヶ月やっていただきたい。家庭をもち、政治家としての仕事を持ちながら介護体験を試みたら、少しはわかる...?いや鈍感な人にはわからないのだろうか...などなど考えてしまいました。せめて、人間らしく生きるとは何なのか、どういうことなのか、マジメに考えてくれる国会議員じゃなきゃダメです。

私も政治家のはしくれ、ということになりましょうが、今日体験させていただいたことを胸に、みなさんと心をひとつに地方政治がやれることを求めていきたいと思えます。

・熊谷憲一

大変参考になりました。梅津さん、宮城さんにお世話になりました。今後親しくおつきあいをしていきたいと思います。

障害者の声を市政に反映させるために、何ができるか一緒に考えていきたい。

市民ネットワーク

・伊藤牧子

在宅介護は初めての体験であり、大変勉強になりました。

重い障がいを持ちながら働き、そこで得たものを社会に還元していく力強い小谷さんの生き方に私の方が、勇気と元気をいただきました。有難うございました。

特に在宅介護は訪問ヘルパーとの信頼関係で成り立っていることを痛感しました。その豊かな対等互恵の関係を築いていくためにも、事業者を含めた介護する側の環境をあらゆる面で充実させていく必要があると思いました。

短い時間でしたが小谷さん、ヘルパーの伊藤さんにお会いでき、貴重な一時を共有することができ大変うれしかったです。本当に有難うございました。

・小倉なほ子

短い時間でしたが、予想していたより、スムーズに体験できたと思います。小谷さんの気配りのおかげだと強く感じています。

お話しのはしばしでうかがうことのできた、自立生活を実現する上での困難な状況（経済的にも、サービス提供者との連携のとり方など）など今後の活動に大変参考になりました。

どんなことにも言えますが、頭ではわかったようなつもりでも、実際に体験することの重要性を感じましたし、親しく接していただき、気持ちがとてもあたたかくなりました。また、ひとりの介護の瞬間を経験豊富なヘルパーの方とともにすごせたことで、当事者、介護者双方からの声をうかがうことができましたことも大変貴重です。

小谷さんから一言一言、そして身体全体から大きくて熱いメッセージをいただいたことに心から感謝しています。

だれもが生きいきと暮らすことのできる社会の実現をめざし、ねばり強く活動を続けますので、ご意見、ご指導をいただき、ともに頑張りましょう！！本日はありがとうございました。

・坂ひろみ

いつも自分がしていることも、いざ人にするとみると、とまどうことがなんと多いことに驚きました。

相手の気持ちになって考えてみても、性別や性格、年齢や考え方によってその対応は様々であると思います。

したがってその解決の為には、まず当事者本人に聞く、そしてコミュニケーションを深め

ることで小さな溝をうめていくことを重ねていくしかないのかなーと思いました。
ヘルパーさんとの介護のあり方を見て、どんなに小さなことでも決定権は当事者本人にあることを改めて勉強させていただきました。とても短い時間の中でしたが貴重な体験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。また機会がありましたら宜しく
お願い致します。

・佐藤典子

今日は2月24日、9:00~という、このセミナーのスタートに参加させていただきました。ありがとうございました。

受入れて下さった紺野さん、佐藤さん、朝の早い時間帯で申しわけありません。私も少しドキドキしながら参加させていただきましたが、受け入れて下さる紺野さんはもっとお困りだったかもしれません。私は自分がこれまで戸惑っていたことなど率直にお話しさせて頂く中で、介護（支援）の時にはまず何よりも相手を思う心で接することが大切であり、バリアフリーのまちづくりを当事者のみなさんをつくることの重要性を改めて感じました。これまで、このような体験セミナーに参加させて頂く機会がなく、とても貴重なひとときでした。ありがとうございました。

・山田すみ子

とても楽しく良い時間を過ごさせていただきました。親切にしてくださってありがとうございます。

作業所は、織り機でステキなマクラなど綾織り、さき織りなど細かなお仕事を楽しくも厳しく行っていました。

私にはマフラー作りを体験させていただきました。始めは足に力が入らなかったり、忘れてたり、糸が絡んだり大変でした。その度に隣のあつ子さんは親切に教えてくれました。

また、お昼にチラシ寿司をご馳走になりました。おいしかった。ご馳走さまでした。

地域の人たちももっと気軽に訪問したりボランティアをしたり、情報を共有するなどをして、いっしょに住み良い地域づくりをしなければならぬと感じました。

札幌市昨年10月に「札幌市自治基本条例」を制定しました。市民主権を確立し中身のある条例にするのはこれからです。大切な就労の場である作業所の補助金が削られたり、障がい者自立支援法で負担増が生じています。皆様とともに誰もが住み慣れた地域で暮らしていける仕組づくりを頑張ってください。マフラーとても好評でした。

無所属

・飯田佳宏

介護体験をいほどの体験は初心者？ということでおてやわらかにして下さったようで（笑）体験というほどの大変さを味わった訳ではないのですが、とにかく人手が必要だな

と思いました。自己主張のできない方はお家で引きこもってるのかな...なんて思いました。私は率直に言えばいかに物事を要領よくしよっかな...と考える人間なのですが、どうしたらよりよくなるんだろ?と考える機会とヒントや材料を少しもらえたことに感謝しますよ!

小樽市議会議員候補予定者

新党大地

・成田祐樹

人に個性があるのと同じで、障害者にも、介護する側にも、それを認定する側にも様々な個性があり、それを『介護』という一くくりの言葉で表現するのは非常に難しいと感じました。人と人が助け合う活動に対して、答えが出てしまう事は無いかと思います。たからこそ、続けて考えていく姿勢が大切ではないかと思いました。

これから、10年先、20年先、介護のかたちがどんどん変わっていくかと思います。その一つ一つに満足せず、これから生まれてくるかもしれない人たちにも、もっと自立して生活していける環境を作ってあげなければならないと思いました。今日はありがとうございました。

江別市議会議員候補予定者

民主党

・林かづき

日常、生活というものには休みがない。

さまざまな人がいるので、支えられる範囲で支えられる制度、しくみをつくっていく必要がある。